



# 山王台だより12月号

令和2年11月30日

横浜市立山王台小学校

〒235-0016

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL.045 (755) 1107

【学校教育目標】自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

## 21年後の謝罪

校長 志田 一彦

学校周辺のイチョウの葉が黄金色に色づき、季節はすっかり冬の装いになってきました。毎年この時期になると、私は自分が小学生だった頃のある出来事を思い出します。それは、私の心の中に苦い思い出として刻まれており、学級担任をしていた時は、その経験を踏まえながらクラスの子どもたちを指導していました。

私が小学校5年生、冬休みを間近に控えた頃のことです。私は、掃除の時間に同級生のNと些細なことから口論となり、かっとなった私は、Nを蹴飛ばしてしまいました。それに腹を立てたNは、掃除に使っていたデッキブラシを振り上げ、私に襲いかかってきました。デッキブラシが私の腕と頭を直撃し、私は左腕を骨折、頭を3針縫うけがを負いました。

その日の夕方、Nは母親と一緒に私の家に謝罪に来ました。私は左腕を三角巾でつり、頭を包帯で巻かれたままの状態でした。Nは私の脇で正座をし、絞り出すような声で「ごめんなさい。ごめんなさい。」と涙を流しながら謝罪をしました。Nがデッキブラシを振り上げたのは、私に蹴られたからであり、私にも非はあるのですが、Nは一切の言い訳をせず、私にけがを負わせたことに対して謝罪の言葉を繰り返していました。

私は「自分が蹴ったからNが怒ったんだ。」と思いつつも、ただ黙ってNの謝罪を聞いていました。私がNを蹴ったことについては、Nから指摘されることはなく、先生や私の両親は知らなかったかもしれません。

私は自分がNを蹴ったことについて口を閉ざしました。Nとは6年生でも同じクラスになり、何事もなかったかのように卒業するまで一緒に過ごしました。

私は小学校の教師になり、担任として子ども同士の様々なトラブルの対応をするようになりました。子どもの中には、相手ばかりを責め、自分の非を認めようとしない子、自分にとって都合の悪いことは保護者に話さない子など、様々な子がいて、その対応に苦慮していました。

そのような中で私は、それまで忘れていたNとのけんかのことを思い出しました。一切の言い訳をせず、涙を流しながら謝罪をしていたNはどんな気持ちでいたのだろう。私は、自分がしたことには口を閉じ、Nだけを加害者にしてしまった自分の態度を恥じました。そして、自分の経験としてNとのけんかのことをクラスの子どもたちに話すようになりました。

小学校を卒業してから20年後にクラス会が開かれ、久しぶりにNと再会しました。Nは中学校の教師になっていました。クラス会は小学校時代の思い出話で盛り上がり、私とNとのけんかも話題に上がりました。

私はNに「あのけんかは自分に原因があったんだ。ごめんな。」と言うと、Nは「志田とのけんかことは、よく生徒に話すよ。」と笑いながら答えていました。Nが教職の道に進んだこと、そして、Nもあの時のことを忘れず、生徒に話していると知り、自分と全く同じであることに驚きを感じました。

二人のけんかから21年の歳月が流れ、この日は、私にとって21年後の謝罪となりました。

子どもは、友達同士の様々な関わり合いの中で人間関係を学んでいきます。時には、相手を傷つけたり自分が傷ついたりすることがあるかもしれません。学校では、その場その場をとらえて指導を行います。すぐには結果として表れないこともあります。しかし、指導されたことを振り返ったり、自分自身の行動を反省したりすることが必ずあります。それがたとえ何年後であったとしても、私たちは、子どもの変容を信じ、日々、繰り返し、繰り返し指導を続けていきます。

早いもので、今年のもくろみのカレンダーも、あと1枚を残すのみとなりました。12月からは人権週間が始まります。誰もが、安心して、豊かに学校生活を送ることができるよう、子どもたちの言動、行動に対してアンテナを高くし、その成長を見守っていきたいと思います。

保護者や地域の皆様のご支援、ご協力に感謝しつつ、少し早いですが、来年も皆様にとってよい年となりますよう、お祈り申し上げます。